

令和元年度 第3回帯広市緑化審議会専門部会 議事録（概要）

- 1 日 時 令和元年9月4日（水）10：00～11：05
- 2 場 所 帯広市役所10階第5A会議室
- 3 出席委員 橋本部会長、坂本委員、高橋委員、松田委員、宮崎委員 5名
- 4 事務局 和田部長、石塚道路担当調整監、樂山課長、中村公園管理担当課長、小丹枝みどりと花の係長、中村管理係長、國枝整備係長、丹羽主任、小泉主任、下森主任、伊藤主任補、追杉主任補、佐藤係員

5 議事概要

- ・次期緑の基本計画の骨子について

（事務局より「緑の基本計画骨子案」について内容説明）

委員 骨子案には4つの基本方針が割り当てられているが、そのうちの2番目、3番目、4番目が、よくワークショップなど皆が共同で決める時の要素である、基準と予算と要望という要素に合致している。

そして、基本方針の1番目が市の方針として最も掲げるべきものが来ているので、とてもバランス良く項目分けがされていると思う。

その中で、おそらく今後概念図のようなものを作ると思うが、そこに入れることができるような、頭に残るキャッチーな言葉があると良いと思う。

例えば2番目は「みどりをつくる」要素、3番目は「みどりを伝えていく」要素、4番目は「みどりを使う」要素、というような単純な言葉を作り、それを各基本方針の先頭に記載すると、市民の方に話の流れが入ってきやすいのではないかと。

様々な人が見るものであるため、基本方針ごとに色分けするなど、後半の記載を見ても話の内容が飛んでしまわないようにした方が良いと思う。

部会長 確かにこの骨子案を見た時に、個々の部分については良くまとめられていると思う。

ただし、全体の構成としては、繋がりや全体像が見渡しにくいかもしれないので、今話があったように、それぞれ分かりやすい言葉で項目立てした方が良いと思う。

委員 これからの素案の構成の中で、他の資料とも組み合わせられていくと思うので、その時に上手く言葉や色を使うことが出来れば、最後まで考えが分かる計画になると思う。

委員 市民に周知させるには、固い言葉だけではなく分かりやすい言葉を使うということは良いと思う。

部会長 文章を行ったり来たりしながら読み解いていかななくても良いように、内容を検討していただきたい。

委員 全体を通して見ても、色々な面から計画を考えられていて、委員が考えていたことも上手く網羅されていると思う。素案の作成にあたっては、取り組みや指標について市民一人ひとりが分かる形を取ってもらいたいし、これから育っていく子供たちにみどりの良さを伝えていく考えが含まれていたら良いと思う。

部会長 全体で見たところ大きな部分では問題は無く、個々の部分についても将来的な希望の部分を含めて、これまで話をしてきた部分が納得のいく形で記載されており、ちょうど良いだろうということの良いか。(異議なし)

(事務局より「基本方針ごとの施策及び指標」について内容説明)

部会長 施策内容について、具体的な表現としてSNSという言葉を入れた方が良いということから入れていただいたり、生物多様性について反映していただいたりというように、これまで意見として出てきた部分については、具体的な表記で反映していただいたと思う。

委員 「みどりを活用した教育・子育て」について、環境教育の関連を取り上げていることは良いことだと思う。

今年の10月から帯広市の学校ではコミュニティスクールという制度が導入される。そこでも地域の要望として地域の自然環境の教育についても、目標の中に取り入れてほしいと要望している。

高齢化が進む中で子どもたちには小さいうちからみどりについての意識を持たせて、大きくなった時にみどりの大切さについて理解してもらうために、こうした所とも繋がりを持ちながら活かして行ってほしい。

部会長 次の世代に繋げるために、学校教育も重要であるし、市民と連携した新しい活動もあり、計画にも書かれるということで、これからお互いにやりやすくなると思う。

委員 「みどりによるまちの賑わい向上」について、最近では十勝フードトラック協会という団体が立ち上がるなど、キッチンカーがたくさん出て来て、公園で遊ぶ人達にも人気となっている。

ただ公園があるだけではなく、キッチンカーが何台かあるだけで、市民の公園の利活用の助けとなり、楽しんでいたのが良かったと思う。

部会長 「多様な整備・管理手法による公園の魅力向上」のところで、民間活力の導入という表現をしている。ここでは具体的にキッチンカーとは書いていないが、そういったものが増えていくのは間違いないと思う。

事務局 キッチンカーについては、最近ではメディアにも取り上げられていて人気である。そういった所とも協力してやっていきたい。

委員 全体としてしっかり章立てしてうまく流れを整理しながら作っているの、流れとしては問題ないと思う。

委員 今までの議論の内容も具体的に反映されていて、内容が良くわかるものになっている。

部会長 施策の内容については、あまり具体的に書き過ぎることはできないので難しいところだが、全体的に骨子の中の施策の部分については良く作られていると考えられるということで良いか。  
(異議なし)

部会長 次に基本方針ごとの指標について、具体的な数値目標を立てているが、この目標数値で良いのか、またその前にこの指標の内容で良いのかどうか考える必要がある。

もちろん、世の中の厳しい目がある中で、努力して増やすという目標にしているのは良いと思う。

しかし、人口が20年後には2割程度減ってしまうというのはとても恐ろしいことなので、そうした状況の中でどういう数値、どういう指標にするのが良いのか議論してほしい。

委員 「市民と力を合わせた帯広のみどりづくり」の指標について、帯広の森で活動を行う団体の人数と、帯広の森・はぐく一むのボランティア登録者人数の合計としている。

しかし、現状として活動団体では高齢化等により存続を心配するような声もあり、森の成長・成熟と共に専門的な技術が無いとできない作業も増えてくる中で、ボランティアの方の人数だけの指標で評価していくというのは、それだけで良いのかと心配な部分がある。

森に関わっている人材としては、はぐく一むを主に利用する学校関係や、シルバー人材センターなどの一部団体、他にも様々な行事に参加される方がいる。そうした方達との関わりについても、上手く併せて評価できないか。

部会長 何を指標の基準にするかを考える時には、特に人の数については帯広市が持っているデータに限られるという問題があると思う。

事務局 確かに、帯広市で集計可能なものを指標に設定する必要がある。さらに、今後20年間の長期に渡って集計することが可能かどうかも重要なポイントとなる。

委員 実際にはボランティア登録者以外にも幅広く関わっている人がいるので、集計可能かどうかを含めて指標に含めることはできないだろうか。

部会長 ボランティア登録者と言うのは具体的にはどういったボランティアの方々なのか。

事務局 森づくり活動団体から申請を受けた際に提出される名簿の人数と、はぐく一むが提出するボランティアリストを集計したものである。

部会長 はぐく一むのボランティア登録は一度登録したら、ずっと継続して登録されるものなのか。

委員 退会の希望が無ければ、継続される。

部会長 はぐく一むのボランティアというのは、具体的にはどのような活動をしているのか。

委員 主にはぐく一むで行う森づくり体験や森に親しむ行事として、自然観察会や自然素材を用いた物づくりの手伝いをお願いしている。はぐく一むのサポートという関わりとなる。

部会長 確かにこの2種類では、将来を考えると若干心配な部分があるが、具体的に他に何があるかという難しい。

事務局 今話が出ている「市民と力を合わせた帯広のみどりづくり」という基本方針は、言葉を変えたと市民協働の取り組みを行うための方針である。

その中で、帯広市として今後20年間追跡して数字を追っていけるかという視点で見た上で、ボランティアの登録者数を案として出させていただいた。

ただし、4つの基本方針に対して指標を1つずつと考えているため、この指標だけで全てを網羅するのは難しいとも考えている。

指標については、あくまでも進捗が全体として進んでいるかどうかを確認するものであるため、実際の評価については、様々な要素で評価していくことになると思う。

委員 「都市環境の基盤となる場所や、身近な場所でのみどりづくり」の指標について、今後の公園の開設数に限りがある中で、市民一人当たりの公園面積を増やしていくということだが、どうやって増やしていくのか。

事務局 公園については、現在ではある程度整備は進んでいるが、全ての市民が等しく足を運べる距離に公園が配置されているかということ、旧市街地や駅周辺のように空白の地帯も存在している。

しかし、新たに土地を買って公園を増やしていくことは財政面からも難しいため、公園を作る速度は緩まるかもしれないが、地域の要望と帯広市の所有する土地が適合した場合には、公園を開設することを考えていく。

また、これから人口が減少していく中でも、現在の公園の数や面積をしっかりと維持して行く事で、一人当たりの公園面積を増やしていくことになる。

部会長 地域の土地を買っていくことができないことは、誰もが分かっていることだと思うので、人口が減るからそれだけで目標達成ということではなく、何かを活用するという形で、できることについてはやっていくということだと思う。

委員 公園の維持というのは、遊具の更新や、古い樹木、市民の要望対応など、とても大変な事だと思う。帯広市としては、簡単に閉鎖したり統合したりせず、今のまま維持していくという考えが伝わるので良いと思う。

委員 指標全体について、他町村でも緑の基本計画を再検討する中で、指標そのものをなくしている所もあるので、帯広市は素晴らしいと思う。あえて作らない方が楽なので、現状の評価だけで終わらせてしまうことなく、目標を立てることはとても評価できると思う。

本当は公園や帯広の森の利用者数などを設定したいところを、集計できる数字ということで今回の指標を選んだと思うが、前回の緑の基本計画での緑被率や緑視率に比べて、より具体的な数字であると思う。

しかし、帯広の森については、ボランティア登録者数だけと言われてしまうと、もう少し対象があるなら入れた方が良くもしいない。

このままでは、どうしてこんな細かい所だけ抽出して市の指標にするのかという感想を持ってしまうと思う。

委員 こうしたことはなかなか成果が表に現れないので、こういう数字をこうするという目標を掲げて取り組むことは必要なことだと思う。

ある程度数値目標がないと、だらだら事業が進んで行く事にもなり得るので、目標の立て方は難しいと思うが、ある程度これまでの実績を踏まえて、実現可能な目標を持った方が事業もやりやすいと思う。

部会長 数字を出してしまうと、それを達成するだけのために何かをやらなければいけなくなってしまい、本末転倒になる場合もある。

例えば、「公園・緑地等の管理に関わる団体数」は維持としているが、これから高齢化により参加できない方が増え、高齢になっても働かなければいけない時代になってくる中、ボランティア活動というのは、選択肢として初めに来ない部分だと思うので、心配な部分はある。

委員 帯広の森のボランティア登録者数については、やはり高齢化の心配があり、人数の維持という所では、これだけを取り上げるのは心配な部分がある。

拠点施設であるはぐく一むでは、その方達以外にも学校関連や一部団体の方、様々な行事に関わる方などたくさんの方がいる。指標以外でも様々な面から評価するという話があったが、ボランティア以外の他の視点があつた方が良くと思う。

同様に「公園・緑地等の管理に関わる団体数・人数」も、これだけで良いのかと気になる部分ではある。

部会長 具体的に現在までに行ってきているものの中で、イベントに参加した人数のように指標に使えるような数字はあるか。

委員 森づくり作業が含まれた行事や学校関係の体験学習などを取り上げることはできると思うが、指標としてある程度集計しやすいものである必要があるので、なかなか難しい。

委員 具体的にはぐく一むでの森づくり限定の行事にどのくらい参加しているかは分からないが、継続して集計し続けるのはとても大変だと思う。

ただし、こうした参加人数を加えることができれば、指標の評価の助けになるものになる。帯広の森を利用している人は、運動施設や帯広の森の沿道などを含めると、大変多くの人がいるので、ボランティア数だけでは寂しい部分はある。

部会長 公園利用は気ままに利用するものなので、利用人数のカウントはできないし、具体的にこの数字を使ってはどうですかというのもあまり無いので、なかなか難しい。

事務局としては、今回の数字は達成が大変な数字として設定したものなのか。

事務局 前提として緑の基本計画を作るに際して、北海道のみどりの基本方針を踏まえ、帯広市の総合計画に即し、帯広市の都市計画マスタープランに適合するという3つの条件がある。

その中で、北海道みどりの基本方針を策定した北海道では指標を持っていない。

一方、帯広市で現在策定中の第七期総合計画については、施策単位で指標を持つという考え方があり。そのため、帯広市の総合計画に即するという形で、緑の基本計画でも指標を持つということになる。

そうした中で4つの基本方針についてそれぞれ指標の設定をしたところだが、人口が減少していくなかで今回の数字は非常に挑戦的な数字であると思う。

しかし、1つ目の基本方針にあるように、行政だけでなく皆さんの力を合わせれば決して不可能な数字ではないと考え、それぞれの数字を設定させていただいた。

ただし、帯広の森に関わるボランティア登録者数については、はぐく一むにおける森づくりに関わる事業やイベントといった部分も、数に含めることができるか調整したいと思う。

そのため、平成30年度の実績値を確認した中で、数字を改める形になると思うので、一度検討し、次回の専門部会で改めて説明しようと思う。

委員 はぐく一むについて知らない人も多いので、ここは帯広の森の拠点の施設であるという説明がほしい。はぐく一むを森づくりの拠点として広げていくという前提があって、こうした指標を作ったという説明があれば、ある程度筋が通ると思うのが、前段ではぐく一むはこういう事のために作られているという記載をしないと、分からない人もいると思う。

事務局 素案の段階で整理させていただく。

部会長 専門部会の総意としては、基本的には良いと思うが、数字としては頑張っている数字ではあるので、多少の変更があったとしても理解できるものであるということによろしいか。(異議なし)